

保護者様・地域の皆様

世田谷区立八幡山小学校
校長 林 田 孝 子

前年度の改善方策について実行した改善結果

保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。令和5年度の改善方策を受けて、令和6年度に実行した改善結果を下記の通り、ご報告致します。

提言1 学校行事を通して、他者と協働しながら、多角的に考える力を育成する。

【提言1を受け改善した内容】

- ① ハチリンピック(運動会)での、紅白分け、競技の導入など児童が意欲的に取り組める活動を取り入れました。
- ② 展覧会では、作品を作るだけでなく、その過程や作品についての説明をすべての作品に示し、展覧会当日は、学年を交えて鑑賞する機会を設けました。
- ③ 1～4年生の遠足では、電車を使い、出かけました。道路の歩行、電車の乗り方、目的地での団体行動の過ごし方など、多くの経験ができるよう設定しました。

児童アンケート	肯定的回答	保護者アンケート	肯定的回答	地域アンケート	肯定的回答
学校行事は楽しい。	92%	学校行事は子どもにとって楽しい。	96%	学校行事の内容は充実している。	92%
学校行事は達成感がある。	91%	学校行事は子どもにとって達成感がある。	94%		

【提言1を受け改善した結果】

- ◎ 「学校行事は楽しい」の肯定的評価は、児童、保護者、地域ともに高ポイントとなりました。コロナの状況で制限された活動を児童の実態に合わせて改善したことが、肯定的な評価につながったものと考えられます。また、今年度の研究の一つである「架け橋期」の研究では、幼稚園や保育園の園児たちと交流することで多くの学年の児童が、同学年との関わりだけでは見いだせなかった他学年との交流の際に気を付けなければいけないことについて自然と考え行動している姿が見られました。今後行事や「なかよし学級」等異学年交流の機会を活用し、児童が様々な人との関わりを通して相手の気持ちを考える機会や、相手の立場に立って考えることができる機会を多く設定していきます。

提言2 学び舎間で多世代交流を深め、人との関わり方や「なりたい自分」を創造する力を育成する。

【提言2を受け改善した内容】

- ① 代表委員会の児童は、学び舎の小学校と中学校の代表委員や生徒会の生徒たちとそれぞれの学校での活動などについて情報共有を行いました。
- ② 幼保小連携として、1年生から5年生の児童は学び舎の園児たちとの交流活動をそれぞれの学年で行いました。
- ③ 6年生は、学校支援コーディネーターの運営のもと、キャリア教育授業として、駅員、看護師、警察の方をお招きし、仕事内容や仕事に就くまでに必要なこと、大切にしていることなどを直接聞くことで、自分自身の生き方について考えることにつなげました。
- ④ 5年生は、ANA の飛行機づくりを見ただけでなく、実際に働いている方からの話を空港で聞いたり、人形店の方に協力していただき新しい商品の開発など企業教育などについての理解を深めたりしました。

児童アンケート	肯定的回答	保護者アンケート	肯定的回答	地域アンケート	肯定的回答
区立中学校に関する情報が提供されている。	56%	学び舎の区立幼稚園中学校について情報が提供されている。	45%	学び舎の活動について十分な情報が提供されている。	62%
学び舎の中学校に行ったり、中学校がきたりする機会がある。	47%	子供の生き方や将来のことについて考える授業をしている。	47%		
自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。	81%				

【提言2を受け改善した結果】

- ◎ 昨年度に比べ、児童の「生き方や将来のことについて考える授業がある」の項目では高評価となりました。実際に働いている方々からの話を聞く機会を設定したことで、自分の生き方についても考えるきっかけとなったと考えられます。しかし、全学年を対象とした保護者の評価は昨年度と同様低い結果となりました。全学年共通で、3学期の最後の自分の姿を考えてキャリアパスポートに目標を書くことなどもキャリア教育の一環ですが、その周知は今後も取り組んでまいります。保護者のアンケート結果から学び舎の情報が少ないという結果となりましたので、今後はHP やすぐーるなどを利用して学び舎の活動や情報を提供してまいります。
- ◎ 中学校との交流は、DVD やオンラインという方法で交流することができました。また、「みどりの学び舎」に8つの幼稚園・保育園があり、多くの園と学年が交流することができました。今年度は「架け橋期の教育」についての校内研究を行い、児童、園児とも大きな成果を得ることができました。来年度も、学び舎の特性を生かし、「架け橋期」の児童の育成のために研究を進めてまいります。

提言3 安心して過ごせる地域を目指し、学校・家庭・地域がそれぞれの活動の理解を深め、子どもを真ん中に考える関係を作り、協働する。

【提言3を受け改善した内容】

- ① 全校朝会で地域の活動についての紹介をしたり、チラシを各学年のフロアに掲示したりしました。
- ② HP において、日々の様子をこまめに更新して、学校の情報を発信しました。
- ③ 2年生は、まちたんけん、3年生は、地域安全マップ、4年生は地域の施設の理解と紹介をそれぞれ行いました。

【提言3を受け改善した結果】

- ◎ 評価項目にはありませんでしたが、今年度は地域とのつながりのある学習活動が増え、児童自身も自分の住んでいる地域に愛情と誇りを育むことができたと考えられます。また、それらの活動をHPや学校だより等でお知らせをし、情報を発信してまいりました。保護者の皆様から頂いた、さらに協力できるというご意見を大切に、次年度は今年度の改善案を生かし、地域との交流や活動を行ってまいります。

提言4 学校・家庭・地域が連携して、大人や友達同士でコミュニケーションをとり、進んであいさつができる子どもを育成する。

【提言4を受け改善した内容】

- ① 発達段階に応じて、学年学級ごとにあいさつについての指導を行いました。
- ② あいさつキャンペーン期間を年間3回実施し、あいさつへの意欲付けを図りました。
- ③ 生活指導の月目標と週目標にあいさつの項目を設定し、重点的に指導を行いました。

児童アンケート	肯定的回答	保護者アンケート	肯定的回答	地域アンケート	肯定的回答
わたしは、お客様や地域の人にすすんであいさつができる。	83%	本校の子どもたちは、よくあいさつし、安全に登下校している。	74%	子どもたちは、よくあいさつができる。	80%
		わたしは、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。	65%	学校からのお知らせなどにより、学校の様子が分かる。	97%
		本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。	72%	地域の人や施設を教育活動に生かしている。	87%
		本校は、地域の活動などに協力的である。	71%		

【提言4を受け改善した結果】

- ◎ 各学年が1週間交代で、朝の挨拶当番となり継続してあいさつ週間を行いました。児童、保護者、地域のすべてにおいて昨年度よりも高評価をいただき、児童自身も来校者やすれ違う人にあいさつをしている意識を高めています。しかし、児童の評価よりも保護者や地域の方々の評価が低いことは、相手意識をもう少し高める必要があると考えられます。今後は、相手からではなく、自分からする意識を高めます。あいさつは、人と人をつなげる大切な役割の一つです。来年度もあいさつを生活指導の重点に置いて、取り組んでいきます。

以上、令和6年度に実行した改善結果のご報告となります。